

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第4回高松市伝統的ものづくり振興審議会
開催日時	平成26年8月28日(木)15時00分～
開催場所	高松市役所7階72会議室
議 題	(1) 高松市伝統的ものづくり振興事業中間報告 (ア) 人材育成県外派遣事業 (イ) 高松市伝統的ものづくり振興シンポジウム (ウ) 伝統的ものづくり親子体験教室 (2) 今後の事業展開に関わるその他報告について (ア) 和雑貨セレクトショップ Discover Japan (フランス・パリについて) (イ) ミラノ万博について (ウ) AJI PROJECT について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	5 人 池田会長、香川副会長、泉川委員、本多委員、谷委員
傍聴者	0 人    (定員 5 人)
担当課および連絡先	産業振興課創造産業係 839-2411

審議経過および審議結果

<p>(事務局) 開会のことば</p> <p>事務局より議題説明</p> <p>(1)平成26年度高松市伝統的ものづくり振興事業中間報告          (ア) 人材育成派遣事業          (イ) 高松市伝統的ものづくり振興シンポジウム          (ウ) 伝統的ものづくり親子体験教室          (2)今後の事業展開に関わるその他報告について          (ア) 和雑貨セレクトショップ Discover Japan (フランス・パリ) について          (イ) ミラノ万博について          (ウ) AJI PROJECT について          (3) その他</p> <p>～事務局より議題(1)について報告～</p> <p>～事務局より議案(ア)(イ)(ウ)について資料をもとに説明～</p> <p>(会長) 事務局からの報告について何か質問はないか。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

審議経過および審議結果

(委員)

県外派遣事業は次年度以降もぜひ継続してほしい。改善点等についても検討していただきたい。シンポジウムの内容は良いものであったと思うが、参加者の年齢層を見ると若い年代が少ないため、PR方法を含め次回以降検討の余地があるのではないか。

親子体験教室は、今後高松市が県外に本市の伝統工芸をアピールできるコンテンツになり得ると思う。

(委員)

シンポジウムは好評だったと感じている。次回は展示即売やワークショップを充実させるとさらにおもしろいものになるのでは。体験教室は継続するのなら参加できる人数枠を拡大するとよいと思う。

(副会長)

県外派遣事業の成果となるような具体的な意見が聞きたい。特に販売に関して、派遣事業に参加した職人の意識の変化などについて知りたい。

シンポジウムはブース部分のさらなる工夫をしてほしい。

体験教室は参加者の負担と市からの補助の金額のバランスを再考する余地があるのでは。伝統的ものづくり体験は、来高する海外からの旅行客のコースに入れるなど、観光事業と結び付けた海外へのPRとしても使えるのではないか。

(委員)

県外派遣は具体的な結果が見えにくい。市の職員が同行せず、職人のみが参加するという方法は効果が出にくいのではないか。次年度以降実施方法を再考すべきだと思う。例えば、金沢市はモノトヒトという試験的に販売をする事業をしているが、次年度以降の県外派遣事業において高松市も参加するなどの検討はできないのか。

(会長)

職人がモノを「売る」ようになるのか、職人はモノを「作る」ことのみで特化して販売は別の機関が担うのか等次年度事業を行う前に出口の役割を検討していくべきである。

シンポジウムの参加者を見ると関係者の参加がほとんどであり、関心の高さを感じた。今後は販売についてなどテーマを絞ったシンポジウムを開催するのもよいと思う。

親子体験教室はお断りした件数をみると実施方法に改善の余地があると思う。今度元サッカー選手の中田英寿氏をゲストに迎え、漆芸研究所のイベントを行う予定であるが、抽選など実施の方法はクレームにもつながるため慎重に考えている。

県等もぜひ今後今回市が実施したようなイベントを一緒に行ってほしい。

～事務局より議題（２）について説明～

～事務局より議案（ア）（イ）について資料をもとに説明～

（委員）

フランス・パリのセレクトショップ Discover Japan については収益のバランスを含め参加の方法をよく検討すべきだと思う。

（会長）

海外での販売については、ターゲット層等を絞り込み参加すべきである。

（委員）

安くて品質が良い、という切り口から入ってしまうと価格の高いものは売れなくなってしまう。例えば「寿司」のように、そのものが持つステータスで価格が設定できるようなものになっていくには時間がかかるものである。実際、海外への輸出費を含んだ値段設定を考えても、伝統工芸品の価値を高めた状態での情報発信を行わないと、ミスマッチが売り手と買い手のミスマッチが起きる可能性が大きい。

（会長）

行政として宣伝以上に何か踏み込んだアプローチができるのが疑問である。海外で商品を販売するのなら、アフターサービスの充実など日本ならではの「おもてなし」精神を表現した販売方法が求められているのではないか。

（委員）

JAPAN EXPO ではブースを出展したことはあるのか。単に PR ということをおねらって今回の事業に参加するのなら、事前に JAPAN EXPO に参加するとよいと思う。

（副会長）

出展するなら覚悟を持ってブースの見せ方や商談等の知識のあるスタッフの配置などを考えるべきである。

～高松市牟礼庵治商工会 AJIPROJECT 担当者より議案（２）（ウ）説明～

（会長）

何か質問はないか。

（委員）

通信販売での成果はどうか。

（AJIPROJECT 担当者）

初めはやはり石の質感などが通信販売ではわかりにくかったようだが、一旦店頭で見た後、ネットからの通信販売での購入する人も増え、荷物として持ち帰るのが負担な県外客等を中心として徐々に購買方法の選択肢のひとつになってきたようである。

（委員）

イサムノグチをたどって高松に来る旅行客は多く、土産物として庵治石の製品が求められることが多い。店舗では庵治石のブ

ックエンドが最もよく売れている。香川には単身赴任など単身で来られる方が多いので、送別等のシーンで高松らしい記念品として使われることがよくあるようだ。

(会長)

予算をはじめとし、今あるものを有効に活用することを念頭におきつつ、今後も県・市には行政の立場から積極的に関わっていただきたい。